

香取遺産

Vol. 212

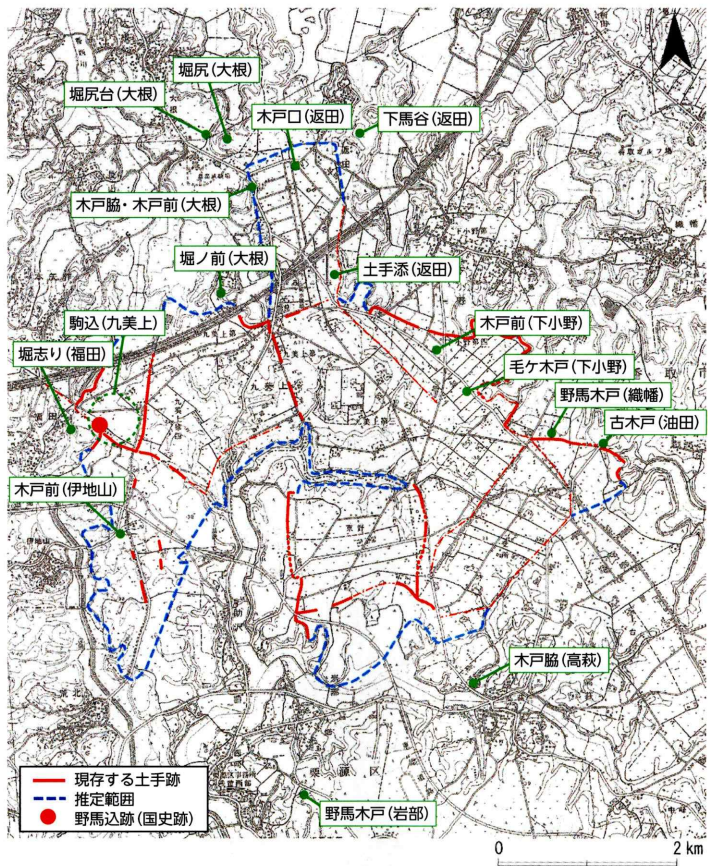
国史跡「下総佐倉油田牧跡」と地名

かつて九美上地区周辺の広範囲に、油田牧という馬を放牧するための牧がありました。牧は江戸幕府が整備した馬牧のことです。房総半島には大きく分けて、佐倉七牧、小金五牧、嶺岡五牧の3カ所が置かれ、油田牧は、佐倉七牧の北東端に位置しています。

油田牧範囲の西端に残されている野馬込跡(令和元年国史跡指定)は、年一回、野馬捕りの際に使われた土塁状の施設です。詳細は香取遺産Vol.156で紹介しています。

牧関連の遺構として、牧の外周を囲む野馬除土手跡や牧の内部を仕切る勢子土手跡も各所に残されています。その一部は、野馬込跡付近の道路脇や、駐在所のある九美上交差点付近で目にするすることができます。

遺構以外にも、



野馬込跡周辺は駒込という小字になっているなど、地名にもその名残があります。牧と周辺村々の境には、馬や人の出入りを管理する木戸番が置かれましたが、九美上周辺には、木戸にちなむ小字が確認できます。木戸前・木戸脇(大根)、木戸前・毛ケ木戸(下小野)、野馬木戸(織幡)、古木戸(油田)、木戸脇(高萩)、野馬木戸(岩部)、木戸前(伊地山)といった小字で、こうし

た場所に木戸があったのでしょうか。その他、土手添・下馬谷(返田)、堀尻・堀尻台・堀ノ前(大根)、堀志り(福田)といった小字も牧と関連がありそうです。九美上という地名は、明治2年に政府が牧跡の開墾事業を始めた際に、開墾順に数字を付けた比較的新しい地名です。近隣では、七栄・八街・十倉・十余三といった地名もあります。

国生涯学習課 ☎ 1224